

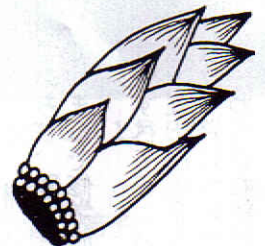
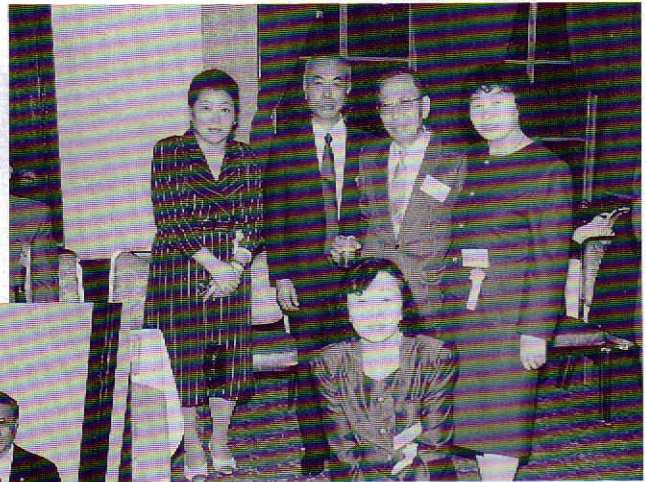
遠征歌

一、潮騒さゆる 北海の
岸のほとりに 地を占めて
たゆまぬ歩み 幾年の
陣容なりて 時至る

二、見よ この姿 この光
奥羽の華と うたわるる
高き誇りを 身にひめて
立てり 能高 健男児

三、百練千磨 山を抜く
力は内に 溢れたり
誰か とゞめん 若人の
嵐に向かう 熱血を

四、いざや 征衣の 袖軽く
奮えて行けや 我が選手
いざや輝く 栄冠を
勝ち得て帰れ 我が選手





秋田県立能代高等学校 新制四期生卒業40周年記念同期会

平成4年9月12日

●出席者●（前列左より最高列右へ）高畑建志，青木勇，岩見雅夫，田畑久雄，渡辺誠治，宮腰陽一，佐藤武光，村井克自，齊藤裕，道川屋隆悦，松野和，下妻正順，浅野峯太郎，佐藤清明，小林斌，干場正司，谷内昭夫，三浦義正，能上正男，安井孝蔵，丹波望，佐藤州男，竹内敏夫，福田昌雄，石井信男，塚本明，吉田一鐵，高木洋一，児玉多郎右ヱ門，松枝潔，伊藤迪夫，田村守種，堺和民，佐藤政光，成田廣造，石嶋芳人，須藤敏夫，笠井義一，阿部銃一，田中紀夫，宮腰克弥，小杉山啓一，秋元義雄，田口昇，宮腰吉則，神馬秀夫，柳川重雄，銭谷哲男，加賀進一，佐藤良，工藤茂美，工藤太一郎，鈴木一，佐藤進，笠井三朗，成田秀雄（遅刻土井啓有）《以上，敬称略》

女子生徒初入学で胸ドキドキ！

村井克自 新制四期

新制四期生（通算二期生）卒業四十周年記念同期会が、平成四年九月十二・十三日の両日、『国民年金保養センターのしろ』で開催。遠路はるばる駆けつけた者を含め、総勢五十七名が集まり、夜を徹して飲み明かした。

思えば、当初秋田県立能代中学校に入学。戦後学制の変更によって、まもなく新制高校併設中学校となり、家庭の事情で併設中学で卒業する者、新たに新制中学から高校に入学してくる者もあって、クラス内の変動も激しい上、仮校舎（後に焼失）から椅子山の新校舎への移転などなど実に目まぐるしい6年間であった。

民主主義時代に入ったおかげで、往復ビンタの難は免れたものの、中学一年から高校一年までの4年間を最下級生（新制中学が各地域に発足したため、以来能代中学への新入生はなく、高校二年になって初めて後輩を迎えた）で通し、先生や諸先輩に「あまつたれ」と言われ続けたことを思い出す。

高校三年の四月、われわれの男子校に始めて女子生徒が入学してきた。ニキビだらけのイガグリ頭どもが毎日ウキウキして登校したことが、今回集まった五十数名の共通した話題（その内容は今はやりのセクハラになりかねないので、ここに披露するわけにはいかないが）であった。

私に限らず、みんなにとつてにかくハラハラドキドキの連続だったらしい。

就職難のなか、人員不足だった教師を含め、公務員になった同期生の数が意外に多く、その他の仕事について同期生全員が激動の時代を乗り切ってきたことは、それぞれの顔に刻まれたシワや、髪の毛の白さや淡さがよく証明していた。

九月十二日は、同センターに宿泊して（希望者のみ）、翌十三日は貸切バスで火力発電所・風の松原などを見物して、まるで修学旅行の再現の感があった。

苦しかったこと、辛かったことも一変して、今やすべて楽しい思い出となり、今後ますます元気に「四十五周年記念・五十年周年記念に向けて頑張ろう」を合い言葉を誓いあつて、三々五々帰路についた。

なお、それがことさうどうということもないが、われわれ新制四期生は、秋田県立能代南高等学校の最後の卒業生である。